

○日本一の自主防災組織と災害に強いまちづくりの取り組み

令和3年は、雲仙・普賢岳噴火災害から30年の節目の年となります。

島原市では、噴火災害を経験した被災地だからこそ「自助・共助・公助」を市民に浸透させ、機能的で実行力のある日本一の自主防災組織を作り、災害に強いまちづくりを目指しています。

■ **防災避難訓練及び地域防災マップの作成支援**

自主防災会を中心として、小・中学校の児童生徒、保育園や福祉施設など地域一体となった市主催の防災避難訓練を市内4地区に分けて実施しています。

また、噴火災害で被災した安中地区では、毎年、自主防災会主催による避難訓練が実施され、地域における「顔の見える関係」の構築が図られています。

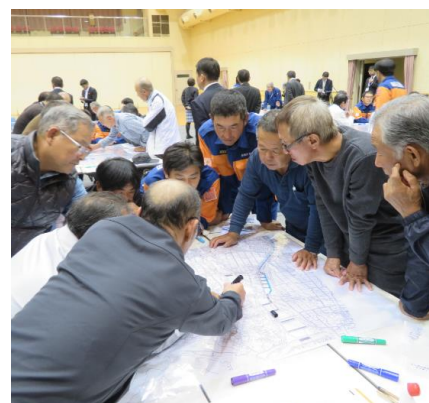
なお、自主防災会単位での地域防災マップの作成支援も進めています。



小学校から避難する児童
(日曜日を登校日として参加しています。)



自衛隊車両による要支援者の
搬送訓練



自主防災会と消防団など関係機
関と連携して、地域防災マップ
を作成

■ **防災視察登山と砂防事業現地視察**

雲仙・普賢岳の現状確認のための防災視察登山を5月と11月の年2回、防災関係機関と合同で実施しています。また、国土交通省が実施している砂防事業を地元自主防災会に周知するための現地視察などの取り組みを実施しました。



関係機関による平成新山（1,483m）防災登山



国土交通省による地元自主防災会への雲
仙・普賢岳の砂防事業の現地視察

【問合せ先】

長崎県島原市市民部市民安全課

TEL：0957-63-1111（内線241）

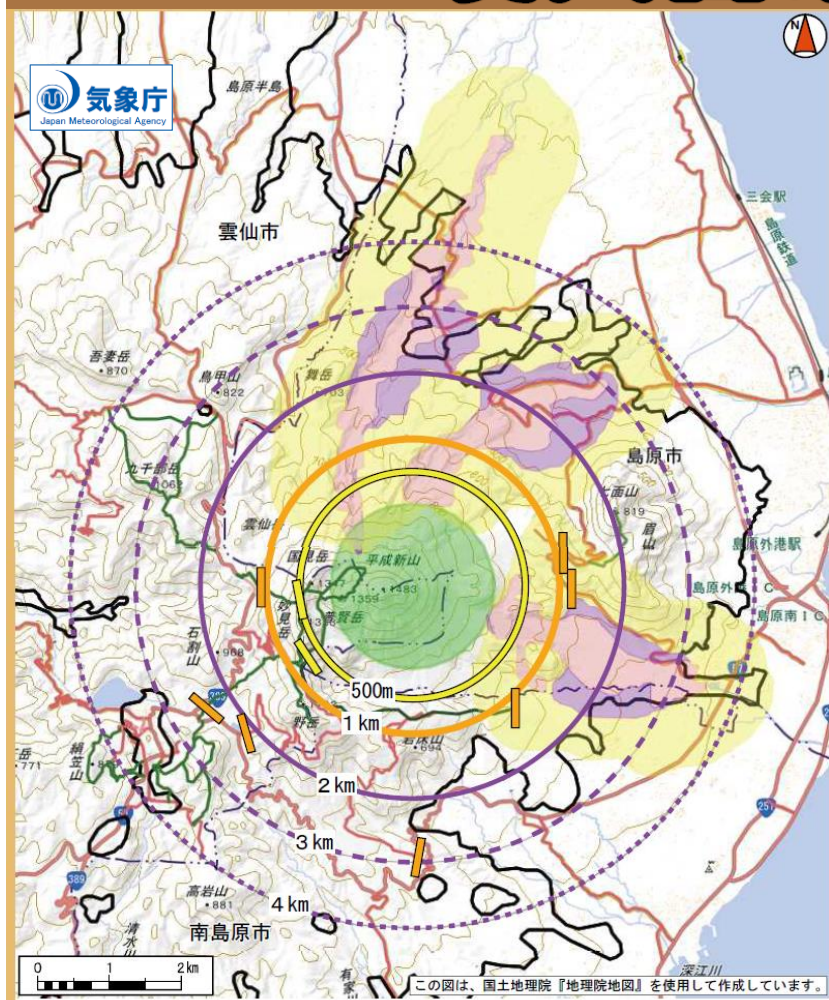
E-mail：anzen@city.Shimabara.lg.jp

事務局（鹿児島市危機管理課）

TEL：099-216-1513

E-mail：kiki-kazan@city.kagoshima.lg.jp

雲仙岳の噴火警戒レベル



●噴火警戒レベルに応じて下記のような防災対応が住民、観光客、登山者・入山者及び自治体等の防災機関に求められます。

- レベル5 (避難): 危険な居住地域からの避難等
- レベル4 (避難準備): 警戒が必要な居住地域からの避難準備、要配慮者の避難等
- レベル3 (入山規制): 想定火口縁から概ね1km以内の立入規制
○の範囲内
- レベル2 (火口周辺規制): 想定火口縁から概ね500m以内の立入規制
◎の範囲内
- レベル1 (活火山であることに留意): 状況に応じて火口内への立入規制

大きな噴石に警戒が必要な範囲は、火山活動の状況により、想定火口縁から概ね500m◎、概ね1km○、概ね2km◎、概ね3km◎、概ね4km◎となります。

- : 想定火口
- : 居住地域
- ◎: 溶岩流
- : 火砕流
- : 火砕サージ
- : 一般道
- : 登山道
- : レベル3の規制箇所
- : レベル2の規制箇所

※噴火警戒レベルが対象とする火山現象は、大きな噴石、溶岩流及び火砕流です。溶岩ドームの崩落や土石流などについては、自治体等が発表する情報に留意してください。

■この図は、噴火シナリオに基づき、雲仙岳火山防災協議会と調整して作成しています。
■各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については長崎県、島原市、雲仙市及び南島原市にお問い合わせください。

雲仙岳噴火シナリオ

継続時間 (目安)	活動前	数ヶ月～数年	数週間～数ヶ月	数週間～数ヶ月	数週間～1ヶ月	数日～数年	数ヶ月～数年		
噴火活動の想定	<p>【平常時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○弱い噴火活動等 ○山体浅部で火山性地震の発生 ○横溝地下でA型地震の発生 <p>【前兆現象無し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○火山活動の高まり ○山体全体、または一部の拡張を示す地殻変動 ○有感地震の発生 ○横溝から島原半島への震源の移動 <p>【火山活動の高まり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○山体浅部の局所的な緊張を示す顕著な地殻変動 ○山体浅部への震源移動 ○地震・微動活動の活性化 ○山体浅部を震源とする規模の大きな地震の発生 ○噴気量増加・熱異常 <p>【火山活動の高まり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○山体浅部へのマグマの上昇 ○地震・微動の多発 ○規模の大きな地震の多発 ○急激な山体緊張の進行 <p>【マグマ(水蒸気)噴火の発生、溶岩の出現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■影響範囲: 想定火口の周辺 ■影響範囲: 想定火口から居住地域近くまで ■発生する現象: 大きな噴石、小規模な火砕流、降灰 <p>【火砕流、溶岩流が発生する可能性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■影響範囲(避難準備) 居住地域(想定される範囲) ■発生する現象: 大きな噴石、火砕流、溶岩流が居住地域に到達の可能性 ○溶岩ドームの成長、火砕流多発 <p>【火砕流、溶岩流の発生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■影響範囲(避難準備) 居住地域(想定される範囲) ■発生する現象: 大きな噴石、火砕流、溶岩流が居住地域に到達、または切迫 <p>【活動の終息】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○噴火活動低下 ○地震活動低下 ○熱活動低下 ○山体収縮等 <p>噴出物の堆積後の土石流</p>	<p>【平常時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○弱い噴火活動等 ○山体浅部で火山性地震の発生 ○横溝地下でA型地震の発生 	<p>【前兆現象無し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○火山活動の高まり ○山体全体、または一部の拡張を示す地殻変動 ○有感地震の発生 ○横溝から島原半島への震源の移動 	<p>【火山活動の高まり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○山体浅部の局所的な緊張を示す顕著な地殻変動 ○山体浅部への震源移動 ○地震・微動活動の活性化 ○山体浅部を震源とする規模の大きな地震の発生 ○噴気量増加・熱異常 	<p>【火山活動の高まり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○山体浅部へのマグマの上昇 ○地震・微動の多発 ○規模の大きな地震の多発 ○急激な山体緊張の進行 	<p>【マグマ(水蒸気)噴火の発生、溶岩の出現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■影響範囲: 想定火口の周辺 ■影響範囲: 想定火口から居住地域近くまで ■発生する現象: 大きな噴石、小規模な火砕流、降灰 	<p>【火砕流、溶岩流が発生する可能性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■影響範囲(避難準備) 居住地域(想定される範囲) ■発生する現象: 大きな噴石、火砕流、溶岩流が居住地域に到達の可能性 ○溶岩ドームの成長、火砕流多発 	<p>【火砕流、溶岩流の発生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■影響範囲(避難準備) 居住地域(想定される範囲) ■発生する現象: 大きな噴石、火砕流、溶岩流が居住地域に到達、または切迫 	<p>【活動の終息】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○噴火活動低下 ○地震活動低下 ○熱活動低下 ○山体収縮等 <p>噴出物の堆積後の土石流</p>
時期	静穏期	活動活発化期	水蒸気噴火期	マグマ(水蒸気)噴火期	溶岩ドーム形成期	火砕流発生期	噴火終末期		
噴火警戒等	噴火予報	火口周辺警戒	火口周辺警戒	火口周辺警戒	噴火警戒	噴火警戒	火口周辺警戒～噴火予報		
噴火警戒レベル	〈レベル1(活火山であることに留意)〉	〈レベル2(火口周辺規制)〉 「火口周辺に影響を及ぼす噴火の発生が予想される」	〈レベル2(火口周辺規制)〉 「火口周辺に影響を及ぼす噴火の発生」	〈レベル3(入山規制)〉 「居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす噴火が発生する、あるいは発生すると予想される」	〈レベル4(避難準備)〉 「居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される。」	〈レベル5(避難)〉 「居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が切迫又は発生。」	活動の状況に応じて、適宜レベル変更を行う。		
基本的な防災対策	活動状況により想定火口内への立ち入り規制等	想定火口周辺への立入規制等	想定火口から居住地域付近までの立入規制等	警戒が必要な居住地域避難準備、要配慮者の避難等	警戒が必要な居住地域避難状況に応じて規制範囲の拡大	段階的に規制緩和			